練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子

HP　https://www.nerima-tky.ed.jp/shikinokaori-e/

＜１１月特別号＞

令和８年１１月６日

TEL　03-3977-2711

校 長　繁田　幸江

第１９６号

朝夕の空気に秋の深まりを感じる季節となりました。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本年４月に６年生が受けた全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。今号では、結果の概要とあわせて、学校で進めている授業改善の取組やご家庭へのお願いも詳しくお伝えいたします。

令和８年度　６年生　全国学力・学習状況調査結果（令和８年４月実施）

１　教科の平均正答率（%）

	国語	算数
光が丘四季の香小	**60.0**	**62.0**
練馬区	67.0	65.0
東京都	65.0	63.0
全国	60.9	56.4

国語は全国とほぼ同じ水準でしたが、東京都を５ポイント、練馬区を７ポイント下回りました。算数は全国を５ポイント以上上回り、東京都とほぼ同じ水準です。国語は「読むこと」と記述式の問題を中心に、重点的に指導を見直していきます。

２　国語　平均正答率（%）

	国語全体	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			問題形式
		言葉の特徴や使い方	情報の扱い方	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	記述式
光が丘四季の香小	**60.0**	**64.5**	**50.7**	**69.1**	**44.9**	**59.4**	**44.9**
東京都	65.0	70.4	56.7	70.0	50.4	68.8	56.3
全国	60.9	66.8	52.3	65.8	45.7	65.9	54.9

【よくできていたこと】

「話すこと・聞くこと」は 69.1%で、全国を３ポイントほど上回り、東京都ともほぼ同じでした。友達と考えを伝え合う学習を大切にしてきた成果が表れています。文章の特徴を捉える問題も 84.1%と、東京都・全国を上回りました。

【課題が見られたこと】

「読むこと」は 59.4%で、東京都とは約９ポイント、全国とは約６ポイントの差がありました。記述式の問題は 44.9%で、東京都・全国をいずれも 10 ポイント以上下回っています。文章や資料の量が多い問題では、最後まで解答できずに空欄のまま終えた児童が多く、ある記述問題では無解答が約３割に上りました（全国は約 16%）。書く力そのものに加え、長い文章を読み進める力や、時間を配分しながら最後まで取り組む力にも課題があると受け止めています。

国語の授業改善と支援

（1）６年生で重点的に取り組んでいること

○筋道を立てて書く　文章を書く学習では、「結論・理由・事例」の順序を意識して書けるように指導しています。宿題や他の教科の振り返りでも、「資料の○○から」のように根拠となる言葉やデータを示して説明する課題を出し、理由をはっきりさせて書くことに慣れるようにしています。

○読み比べて考える　複数の文章や資料を比べ、共通点・相違点・根拠を表や図に整理してから、自分の考えをまとめる学習を継続して行います。

○読書と対話　朝の時間や家庭学習で読書を勧め、本に親しむ習慣を育てます。本校の強みである対話の力を生かし、友達と話し合いながら文章の読み取りを深める場面も増やしていきます。

（2）各学年の取組

読む力や書く力は学年を追って積み上がるため、各学年で次のように取り組んでいきます。

学年	課題	主な取組
１年	話を最後まで聞くこと、言葉を手掛かりに内容の大体をつかむこと	読み聞かせで静かに聞く経験を重ねます。挿絵と文章を対応させ、大切な言葉に線を引きながら読みます。
２年	経験したことを文に書くこと、大切な言葉に着目して読むこと	モデル文を示し、順序を意識して書きます。「いつ・どこで・だれが・何をした」に線を引きながら読みます。
３年	考えを文章で表すこと、段落同士の関係をつかむこと	言葉遊びや文例で語彙を増やしながら書きます。段落ごとに内容を短くまとめ、文章の組立てをつかみます。
４年	文章を根拠に説明すること、考えと理由をつなげて書くこと	文章に戻って根拠を探す習慣を付けます。「考え―理由―具体例」の構成メモを作ってから書きます。
５年	要旨をつかむこと、文章を根拠に考えをまとめること	中心となる言葉や文から要旨をまとめ、文章を引用しながら自分の考えを書きます。
６年	読むこと・記述式の正答率の低さ、無回答率の高さ。	上記（１）の三つの取組に重点的に取り組みます。

３　算数　平均正答率（%）

	算数全体	学習指導要領の領域					問題形式
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	記述式
光が丘四季の香小	**62.0**	**66.1**	**64.9**	**85.5**	**44.0**	**54.7**	**53.1**
東京都	63.0	68.0	63.4	82.9	49.9	53.9	54.3
全国	56.4	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6	48.5

【よくできていたこと】

すべての領域で全国を上回りました。「測定」は 85.5%で最も高く、「図形」「データの活用」も東京都・全国を上回っています。記述式の問題も全国を上回りました。

【課題が見られたこと】

「変化と関係」は 44.0%で、全国は上回ったものの、東京都とは約６ポイントの差がありました。割合から「もとにする量」を求める問題は 49.3%（東京都 62.0%）、割合の関係を表した図を選ぶ問題は 37.7%（東京都 46.0%）で、数量の関係を図や式と結び付けて考えることに課題が見られます。数直線上で分数の位置を捉える問題でも、つまずきが見られました。また、ある記述問題では、正答率は全国を上回ったものの、何も書かずに終えた児童が約１割（全国は約４%）おり、考えを言葉や式で説明することへの苦手意識がうかがえます。

算数の授業改善と支援

（1）６年生で重点的に取り組んでいること

〇図にかいて考える　授業や家庭学習で問題を解くときには、数直線やテープ図などを自分でノートにかき、数量の関係を目に見える形にしてから考えるようにしています。

〇既習とつなげる　授業のはじめに「これまでのどの学習が使えそうか」を確かめ、見通しをもって取り組めるようにします。振り返りでは、「〇〇を使うと」のように学習したことと結び付けて説明する書き方を身に付けさせます。

〇数の仕組みを確かめる　朝学習や宿題で、数直線への書き込みや、小数と分数の表し方の変換など、数の仕組みを図で確かめる問題に繰り返し取り組みます。

（2）各学年の取組

学年	子供たちの様子（課題）	主な取組
１年	文章問題、５や10のまとまり、計算の速さの個人差	ブロックなどを動かし、図にかいてから式に表します。ゲームでまとまりの感覚を育て、計算カードで計算に慣れます。
２年	文章問題の立式、繰り上がり・繰り下がりの筆算、単位	テープ図と式を対応させて考えます。文章問題作りや、モジュールの時間の反復練習にも取り組みます。
３年	筆算の仕組み、時刻と時間・単位の換算、数量の関係の整理	10のまとまりに着目して筆算の仕組みを理解します。時刻と時間を日常的に扱い、線分図や数直線で関係を整理して式を立てます。
４年	桁数の多い計算や小数の計算、場面を読み取った立式	モジュールや家庭学習で基礎的な計算を確かにします。何を求めるのかを考える時間を十分にとり、数直線で数の大きさを捉えます。
５年	既習の計算や小数・分数の定着、割合の関係	計算ドリルで反復練習をします。割合では数直線や図で関係を表し、「何をもとにしているか」を確かめてから式を立てます。
６年	割合の関係、数直線上の分数、説明の記述	上記（1）の三つの取組に重点的に取り組みます。

４　両教科に共通する課題と取組

国語・算数ともに、文章や資料の多い問題や後半の問題で、無解答が目立ちました。分からないところがあっても書けるところまで書く、途中までの考えでも残しておく、という粘り強さを育てたいと考えています。日頃の学習やテストでは、はじめに問題全体に目を通して時間の配分を考えることや、まず書き始めてみることを指導していきます。

もう一つの課題は、根拠を基に考えを説明する力です。国語では文章や資料の言葉を、算数では図や式、既習の内容を根拠にして説明する場面を、授業の中で意識して設けます。

根拠を基に説明する力は、国語や算数に限らず、理科や社会科で資料を読み取ったり、実験の結果から考えたりする学習にも欠かせません。どの教科でも「どこからそう考えたのか」と問い返し、児童が自分の言葉で理由を説明できるようにしていきます。

質問調査では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた児童が 72.1％で、練馬区（79.8％）を下回りました。学習の見通しをもつ時間と、分かったことや分からなかったことを振り返る時間を確保し、自分から学ぶ力を育てます。

振り返りの時間には、分かったことと、まだよく分からないことを自分の言葉で書き、次の学習で何をしたいかを考える経験を重ねていきます。一方で、「分からないことがあったときに自分で学び方を考え、工夫できている」と答えた児童は80.9％、「友達との話し合いを通して考えを深められている」と答えた児童は83.8％と、いずれも８割を超えました。こうした前向きな姿勢を生かし、子供たちが自分の力で学びを進められるよう支えていきます。

５　児童質問調査から　肯定的な回答の割合（%）

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合です。

質問項目	本校	練馬区	全国
自分には、よいところがあると思いますか	**89.7**	86.4	85.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	**88.3**	88.9	85.7
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	**88.2**	90.8	91.4
将来の夢や目標を持っていますか	**72.1**	80.3	81.8
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいつでも相談できますか	**67.7**	69.0	70.6
国語の勉強は好きですか	**48.6**	59.9	57.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	**79.5**	85.8	81.5
算数の勉強は好きですか	**69.1**	62.2	57.6
ICT 機器を授業で週１回以上使用した	**94.2**	87.7	87.9

「自分には、よいところがある」は 89.7%で、練馬区・全国を上回りました。「学校に行くのは楽しい」も９割近くに達しています。一方、「将来の夢や目標を持っている」は 72.1%で、練馬区・全国を８～10 ポイント下回り、「困りごとや不安を相談できる」も７割に届いていません。困ったときに声を上げやすいよう、日頃から子供たちのよさを認める関わりを大切にし、担任以外の教員にも相談できることを繰り返し伝えていきます。また、日々の学習や学校行事を通して自分の将来を考える機会を設け、キャリア教育の充実を図ります。

教科への関心では、算数を「好き」と答えた児童が 69.1%で、練馬区・全国を上回りました。国語は「授業の内容がよく分かる」が約８割あるものの、「好き」は 48.6%にとどまっています。授業の中で「読めた」「書けた」と実感できる場面を増やし、学ぶ楽しさを感じられるようにしていきます。ICT 機器の活用は 94.2%と高い水準です。今後は使う回数よりも、情報を整理・比較して考えを深めたり、表現したりする場面での活用を進めていきます。あわせて、一人一人の理解や興味に応じて学ぶ「個別最適な学び」と、友達と考えを伝え合いながら学ぶ「協働的な学び」の両方に、ICT 機器を生かしていきます。

６　ご家庭へのお願い

学力の土台は、毎日の生活の中で少しずつ育っていきます。次のようなことに、ご家庭でもご協力をお願いいたします。

〇よさを認める声かけを　結果よりも、頑張った過程や小さな成長を認めて、ぜひ褒めてください。その積み重ねが自己肯定感を育て、意欲につながります。

〇本に親しむ時間を　短い時間でも構いませんので、読書の時間を生活の中に取り入れてください。読んだ本について「どんなところがおもしろかった？」と聞いていただくと、考えを言葉にする練習にもなります。

〇「どうしてそう思ったの？」　お子様の話に、ぜひ理由を尋ねてみてください。理由を添えて話す経験が、根拠を挙げて書く力につながります。

〇生活の中で数や量に触れる　買い物の値段や割引、料理の分量、時計の時刻と時間など、身近な場面で数や量を話題にしてみてください。低学年のお子様には、かけ算九九や計算カードの練習なども一緒に見ていただくと意欲が高まります。

〇将来の話を　家族の仕事のことや、お子様が興味をもっていることを話題にしてみてください。身近な大人の仕事の話を聞くことは、子供たちが自分の将来を思い描くきっかけになります。お子様の「やってみたい」を受け止めていただくことも、夢や目標につながります。

今後も全教職員で授業改善に取り組み、一人一人の学びを支えてまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。